

(羽生地区之部)

第五二回史跡めぐり資料 Ⅱ 日程表 Ⅱ

越谷市郷土研究会

第五二回史跡めぐり御案内

とき 十二月廿六日(日) 午前九時三十分

出発

越谷駅 午前九時四十二分伊勢崎行
羽生駅 下車 徒歩

ところ 鬼学コース 現地案内 羽生市郷土研究会

1 建福寺

2 町舎教師の墓 その他

3 文化会館 絵巻物

4 主人公が卒業した小学校跡

5 永明寺古墳

解散 羽生―越谷

会費 五百円 交通費その他

其他 食事 各持お持ち下さい。

主催 越谷市郷土研究会

○ 田山花袋

本名 録林 小説家(一八七〇―一九三〇)
彼情熱、感傷的な詩や小説から出発 一九〇七年
の「報国」で日本文学の一方向を決意した作家主
義的私小説への道を開き、以後自然主義運動の中
心人物として活躍

小説 妻、町舎教師、群論「読者なる描写」

小説「町舎教師」

明治四二年 佐久長壽房より出版、実在の町舎
教師小林秀三(作中曰林清三)をモデルに、国家
の発展、資本主義の躍進とを予約する日露戦争と
いう背景のもとで、それにそむいて延宕されてゆ
く個人生活を美しい四季の推移をからませて描い
た長編、抒情味を含んだ筆調で平版な筆致は花袋
独特のものである。

其他参考資料

三原記

田山花袋初巻頃生育したふるさと同今の田形原
天童市大字高橋(当時高橋は羽前国秋元領内高橋城風
外に在り)この聚今はなし) 昭和四〇年調査
(但是る知る入蓋橋後一、花袋史吉氏資料保存す)

○ 古江神社 (皇承四年建)

○ 宮田神社 (寛保二年建)

○ 明治四年神社現世に遷座

○ 巨城の句碑 (月と桃)

(明治三〇年建)

三、保呂羽堂古墳 山嶺・高さ三三
直至 二十一

四 小説 「田舎教師」の中に記されている奇蹟
羽生分層 二二頁 馬屋屋 二三頁

吹井、形の内白い松、匠者の大きな窓
うどん屋、草履草履 行田道、半道台

唐物屋、足袋屋、呉服屋 郵便局(二二頁)

編習会場(羽生小学校(九四頁))

鶴の湯 (九五、九六頁)

五 葛西用水 (日本三用水の一)

六 羽生文化会館蔵の田舎教師絵巻

七 羽生城跡 藤城 天文の始頃と推定
約 二一・二二へクタイトル

城主 玄田百密 木戸忠朝

成田長親、大久保忠勝

○ 天南 皇公重祿海軍 朝 小六五

資料 大久保忠朝(マダチカ)

江戸初期の大名(一五五三〜一六二八)七五才
坂、徳川家康に仕え、小田原城主 二代形軍に秀隆
を支持す、移住家して道自と称す。

玄田氏関係古文書 蔵任資料 渡辺秀二氏所蔵古文書

羽生市史(一) 一八〇頁 同資料 蔵任資料丁代古書

一 一九一頁

同 一九二頁 同 同頁十二、十三資料参照

成田資料 羽生市史 資料一八 一九頁其の他、
同市史所収各参照のこと。

羽生城跡 館跡 羽生市史二の五項より
二一六頁に

十項目よりなる説明がなされている。

ト 羽生城跡 一、今泉のとの内 二、名

屋ノ内と波井城跡 四、上村新屋城ノ今泉守子

五、桑崎と城の内 六、山川保の寄居、七、藤井上

組と堀越屋敷、 八、中手子林 古坂 九、小須野

内子、(9)下新堀 中馬場をあげている。

台(9)のうしろ 小三郎

口入(9)のうしろ 小三郎

形 口入(9)のうしろ 小三郎

成田家蔵の古文書(一)と(二)のうしろ(一)

資料 成田家蔵

○ 天神社 菅公宿禰御記の碑（文化六年建）

龜井勝科の撰・書 系陳

○ 芭蕉の句碑 蓬米 江戸末、

多少楳杵書

ハ バス利用の務合

たさくじうどん・二一頁

井泉村夜騒 二〇頁

上村君

務刺活等小学校跡四六頁

沐新野

小川益

お練さんの墓

資料 龜田鶏肴

江戸後期の無名（一七五四）一八二六七二才
没、井上金藏に学び、折衷学派の第一人者なり。
門入マ。〇〇入之称せられたが、寛政異学の禁で
おとろえたが、書道面と一派をなし、蘭法を消化
し行草に秀で、特に狂草法は段鬼と共に高く評価
されている。